

作物名 **チンゲンサイ** (アブラナ科) J A 2022 版

標準作型 ○印・播種(種まき) □印・収穫

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地				○					○			

栽培のポイント

比較的暑さに強く、春から秋まで栽培できるが、大株にしたい時は秋まきがよい。水はけ、保水性のよい肥沃地が適しており、土質は選ばないが乾燥は禁物である。

畑の準備と元肥 播種の2週間前までに苦土石灰(10kg/a)で土壌酸性を中和し、堆肥(100kg/a)を入れてから、元肥を入れておく。土作りは、有機物を多く必要とする。

播種(種まき) ビンの底で軽くたたくように鎮圧させて、その上に種子を置いていく。条間を15センチ、株間15センチで一ヶ所3~4粒とし、覆土は5センチくらいでタネがかくれる程度としておき、手で軽く押さえておく。また、均一に生育させるためには適切なかん水が必要である。

間引き 発芽したら密生部分を間引くが、1回目は本葉2~3枚の時に2株残し、本葉4~5枚の時に一本立ちにしておく。生育の弱い苗・大きすぎる苗を間引く。

追肥・中耕 間引き後は、化成肥料をうすくばらまき、株間を軽く中耕する。

収穫 収穫は、種まき後50日くらいから順次収穫する。

防除 春~夏作は、害虫の食害が多いので0.8センチ目以下のネットをトンネル状に被覆する。

肥料施用量 (1 a 当たり使用量)

肥料名	ジシアン有機化成 S806号	NK化成2号	施肥時期
元肥	10 kg		播種前
追肥		5 kg	間引き後(2回)